



Comfort Hearing みみよりNews

No.0016
12.01.25

ご挨拶

今年は辰年、我が温泉旅館の隣に水の神様・海から幸を招く竜神さんの小さな祠があります。元旦にこの竜神さんを夫婦してお掃除してから参拝しました。また玄関前で和服にあらため、新たな気持ちで今年の頑張りを誓いました。

昨年は“想定外”と言われる自然災害、人災が数多くありました。人間は過去の出来事のほんの少しを知り、現在をよく知っているつもりであり、そして将来も想定できると考えております。将来のことなど誰も正しく知り得ません。幸いがおとずれるか不幸が襲い掛かるか、も。



正月に和装しました

日本海・海べりの竜神さん

福岡市での聴覚医学会に参加し、勉強させて頂きました。

前々から考察し続け、考えが迷宮入りしていましたが“自然なきこえ”に関係しました。

今号での主題とします。業界の旧友3氏から貴重なコメントを合わせて載せます。小生の要約で正確な伝達ではありません。ご了承下さい。

本年も宜しくご指導の程お願い申し上げます。

みみよりNEWS 第16号をお届け致します。

今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

株式会社 中国補聴器センター 会長 福元儀智

尚、御意見・御指摘 E-mail でお寄せ下さいますようお願いいたします。

トピックス

【Ⅰ】自然な音、自然なきこえ

【Ⅳ】補聴器適正供給と不適切な販売

【Ⅱ】テクノエイド協会にもの申す

…補聴器適正供給は？

みみよりNEWSのバックナンバーは当社ホームページでご覧いただけます。

ホームページ：<http://www.chg.jp>

E-mail fukumoto-y@chg.jp

ブログ：<http://chg.ldblog.jp>

ツイッター：<http://twitter.com/yoimimi>

【 I 】 自然な音、自然なきこえ

1) 実生活で耳にしている音は全て自然な音である。

その場がどうであれ環境がどうであれ、そこで耳にする音はその場で「自然な音」である。自然な音はオーケストラでの音を集録し、再生した時、録音上での音に近づく程、その再生音は自然と云われる。

音はマイクから増幅器、そして録音され、次いで再生器、増幅器、スピーカーと、これらの経路で種々生ずる歪みが無い事、Hi-Fiと言うが、これを自然な音が再生されると言う。但し、スピーカーが置かれる部屋によって、聴取する音が自然とは云えない事がある。反響や外部騒音が入ったらHi-Fiでなくなる。

一方、自然な聞えは、先に述べた物理的条件ではなく主観的なものでこれは主に聞きやすさ、快適さを表現していると思う。どんなにHi-Fi音であっても不快さを伴う場合自然とは云わない。その人の聴力特性で長期間快適に聞き慣れていた音、これを自然な聞えと言うのではないだろうか。

2) 自然な音、自然なきこえについて尊敬する業界の技術者、3氏にご意見を頂きました。

S氏のコメント

自然な聞こえとは何ぞや、と問われると少し言葉に困ります。広い意味で使っていますから。自然な = ヒトの耳の外耳道の共振特性 (open ear response) に似ていることを指しています。このことから補聴器を比べるとCICを自然な聞こえと表現することはあります。

O氏のコメント

自然な聞こえはもとより学術用語としての定義はないと思う。

補聴器の音はその電気音響特性から「人工的」、「機械的」に聞こえ、それらが緩和されていることの表現として「自然な聞こえ」を用いている。

最近のデジタル信号処理によってはArtifact (人工的な不自然)があり、これらを生じない処理の結果を「自然な聞こえ」と表現する。

物理的に自然な音は、いわゆるHigh Fidelity (高忠実度)の世界だと思う。

N氏のコメント

音響機器で自然な音(の再現)はHi-Fiなもの。

難聴者が補聴器で自然に聞こえるのは種々の難聴から必ずしも1)が良い状態になるとは限らない。

難聴者が補聴器で自然に聞こえる、と言うのは難聴者が聞いて“良い・自然”と判定したものである。

【 II 】 テクノイド協会にもの申す・・・補聴器適正供給は？

1) 認定補聴器技能者の育成

講習会の工夫を

技能者育成制度が大幅に改定された。昨秋更新講習会を受講した。5年間のブランクにどのような進歩・改正・遍歴があるのか勉強できることを期待し、楽しみに大台風の中、出席した。期待は見事に裏切られた。大昔の経験談、戦後初期の制度等の話ばかり。最新のデジタル機能の項目や効能そしてその適応する難聴およびその効果判定等が特に欲しかった。また最近の

制度の精神、運用等を講義して頂きたかった。高い講習料ばかりでなく遠方のため交通費、宿泊費も負担になった。

特に認定補聴器技能者資格の中核的知識・技能であるフィッティング・ノウハウの講習が全く欠如している。初心者から技能者講習まで、フィッティング・ルールの存在・種類のみを提示し肝心の運用には一切講習されない。これでは適正な販売と言っても何を意味するのか不明であろう。

講習会制度の改悪

資格制度発足から補聴器業界は関係各位と協議し、そのあり方について討議集約を重ね、販売店従事者にいかに周知し、参加頂くか多大な労力をつぎ込んできた。

特に販売店協会は総会・支部・県部会等あらゆる機会を捉え、協会活動の活性化イコール資質向上を目指し、ポイント制度の導入等で共栄共存を図ってきた。

テクノイド協会には絶大な協賛と支援をしてきた。しかるに今回、制度の改悪によりこれら全てのシステムをテクノイドの独占下とし、販売店協会とは無関係となってしまった。

そのため業界の各種会合に付随する研修会への参加者が激減しているようだ。メーカーにおける講習会は初期、ポイント認定されなかったが熱意で認められてきた。ポイント稼ぎとの評判もあったがそれなりに機能していたが、メーカー主催の講習会も制度から除外されポイントにはならない。

従来 of 制度に戻すべきだ。

2) テクノイド協会を支えているのは補聴器販売店

テクノイドのH22年度、決算をネットで覗いた。収入の二本柱は国家補助金等(1億566万円)と事業収入(1億8,810万円)とで全体の90%を占めている。

なんと事業収入の66.2%(1億2,458万円)が補聴器の技能者と認定店からであった。さらに会社で言えば営業利益にあたる金額が約3,000万円もある。これだけ貢献しているのにメッキリが少ない!!

ちなみに国家資格である義肢装具士会計での収入は1,300万円程度に過ぎなかった。

認定店費用も技能者講習会費用も殆ど販売店が負担でしている。技能者資格は個人資格であるが零細な販売店では会社負担で講習に参加している。国家資格に通ずるとの謳い文句に淡い期待を込めて付いてきた。これだけ費用を負担しながらメリットが見えない。

それどころか制度発足から中心的・全面的に協力・労力を費やしてきた古からの専門店・専業店は、今や兼業店の“補聴器”の幟に取り囲まれ、その上、メーカーに指導された訪問販売会社に追いやられている。

販売店の出すテクノイド費用はユーザーから頂いた貴重な財源からである。販売店は頂いた財源をより適切にユーザーにお返ししなければならない。

現在のテクノイド協会は物言わぬ弱小補聴器販売店から吸い上げるだけでなく、販売店の健全経営と社員の生きがいを考えて欲しい。それが国民生活センターの寄せられる蛍の光程の不満のご意見に貢献するでしょう。奮起を期待します。



× ???
(+ +)...!!

3) 補聴器認定店管理の矛盾

・・・ 認定店現地審査は廃止せよ・・・

現在5年間で15万円と言う高額な認定店費用を負担しテクノエイドに支払っています。補聴器認定技能者が在籍し、設備条件がクリアされると認定される。申請時の現地調査は設備等が正しく存在するか等で、必要だろう。しかし5年後にさらに現地調査しているが無益である。調査費分の3万円は理由がない。

説明されるのは運営が正しいか、フィッティングが正確かを確認する、との事である。これは店ではなく技能者の問題である。運営やフィッティングに問題があるのは技能者のレベルが低いからであり、こちらを良くするのが急務でないか。基に戻るが技能者養成方法に最大の問題が潜んでいる。

さらに5年間で残り12万円の管理費は妥当だろうか？と疑問に思う。ホームページや名簿作成費でそんなにかかるのか疑問だ。

【Ⅲ】 補聴器適正供給と不適切な販売

販売が不適切であったことは国民生活センターの発表で明白である。しかしこの数字は総販売数48万台からみれば誠に微々たる128件のものである。よって業界では、あれは特別な例で大多数は高い評価の元でご愛顧頂いている、と考えているようだ。

従って販売方法、フィッティング方法、適合の確認方法もこれ以上は考えようとしな。まず、オーディオメータとパソコンさえあれば、また速成教育で十分に高額な補聴器が誰にでも、どこでも販売できると認識している。

地域住民と懇意な団体職員、あるいは商店主に耳の遠い方を紹介してもらい、自宅に上がり込み、オーディオを用いたデータとパソコンで設定して終わりである。靈感商法では即座の効果はみえないが、補聴器では反応が著しい！こんな分かりやすい商品ありがたい！！と訪問販売業者が言ったかの如く話を多く聞く。

やれ資格制度だ、認定技能者だ、認定店の要件はこうだ！！と叫んでいる業界リーダーのメーカーの指導の元で行われている。テクノエイド協会はこの実態を承知されているのだろうか。

教育・育成制度以前の問題であり、テクノエイドは国民・国家から多額の補助金を頂いているのだから、国民・難聴の方が困っているのを傍観している場合ではなからう。

小生、専門店の一員として1989年の販売店協会設立時から役員の一員としてこれらの制度に携わってきたが当初より難聴者のフィッティングが良くなったとは考えられない。メーカーは販売チャンネルを、拡大につぐ拡大し、生産量をほぼ5割アップを果たしたのだからハッピーであろう。しかしながら、この様な販売政策を取るの、天が認めるであろうか。

補聴器販売で販売者も購入者も補聴器の効果が直ぐ分る評価方法の確立が待たれる。



CHG
コンフォート補聴器グループ
株式会社中国補聴器センター

ホームページ <http://www.chg.jp>